

(様式第 10 号)

事前評価結果報告書

令和7年9月 // 日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博一

(押印又は自署)

調査研究課題	「茨城県におけるレジオネラ症の感染リスク評価」に関する試験研究
--------	---------------------------------

評価項目	評 価	意 見	備考
①必要性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	レジオネラ症は重症度の高い感染症であるが、毎年県内で発症し、多くが感染源不明であるため、感染源と重症化リスクから感染リスク評価し対策することは重要な課題である。	
②目的の適合性	5、5、5、5、 5、2、4 平均評価点 4.4	医療機関のヒト臨床試料と環境試料を調べ、感染リスクを評価し対策を周知するのは、衛生研究所にふさわしい内容と考える。	
③計画内容等の妥当性	5、4、5、5、 3、4、5 平均評価点 4.4	これまで培ってきた手法を基にレジオネラ菌の遺伝子型、ゲノム解析法を確立する期間と費用として妥当と考える。 一方、令和11年度に予定している総合的な感染リスク評価の実施が可能であるか、検討が必要ではないか。	
④目標の達成及び活用可能性	5、4、5、5、 3、2、5 平均評価点 4.1	不明であった感染源と重症化リスクによる総合的な感染リスク評価は予防に活用されると期待する。 感染源の推定において、環境因子が多く、感染源の特定が困難ではないか。患者検体及び保健所による調査票のみで目標の達成は可能か検討が必要ではないか。	
⑤総合評価	5、4、5、5、 5、3、5 平均評価点 4.6	先端バイオインフォマティクス技術を導入し、各分離株（検出株）の分子疫学調査を行う必要があると思われる。 また、レジオネラ菌による感染症は、感染源の関連が難しく、患者由来株のみでリスク要因とするのは難しいかと思う。その点をどうクリアしていくのか、期待する。	
⑥計画実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A：6名 B：1名 C：0名 最終評価 A B C	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好